

# じゅしゅう

## 永代経法要 嚴修

十月十九日、今年も当山の永代経法要をおつとめさせていただきました。お昼の法要はこの一年間でお預かりをいたご懇志や、ご奉納いただいた佛具のご披露をさせていただきました。夜は総永代のおつとめを無事につとめることができました。

永代経法要とは永代にわたって、今までも、またこれからもずっとこのお寺でおつとめが続いていくということです。このおつとめは今も亡き先祖さまをお偲びするものでもありますが、おつとめと一緒に法話もあります。実は、私が仏さまの教えに出遇わせたいたく大切な仏縁となっているのです。仏法を今に伝

え残してくださった方々へお礼を申し、この私がお聴聞させていたたく大切な法要でありました。

さて、この度の永代経では八尾市木の本の西光寺ご住職、小村賢昭先生をご講師にお迎えしました。ご議題は仏説阿弥陀経から

「舍利弗、衆生聞かんもの、まさに発願してかの国に生ぜん願ふべし。ゆゑはいかんかくのごときの諸上善人とも一処に会することを得ればなり。」

いわゆる「俱会一処」というお言葉が出てくるところです。お釈迦さまはお弟子の舍利弗に向かつて、「阿弥陀という仏さまがお浄土を建立

第7号  
(通算347号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

くださった。必ずあなたをお浄土に迎え取り、間違いなくお悟りの姿にさせると願いを立てられ、成就し、既に私に働いておられる。そのことを聞かせていただいた上は、お浄土に生まれたいと願うがいであろう。すれば、ともに同じところに集うことができるからである。」と、また会うことのできるみ教えが説かれてあります。

小村先生は、私たちのいのちの解決は往生浄土、お浄土に往生生まれていくことです。そのための因であるご信心は私が起す心ではなく、阿弥陀さまからいただくものです。お聴聞させていただく中で、あなたを救うという阿弥陀さまの願いをそのまま「はい」と受け入れることすと、ゆっくりと順序立てて、丁寧にお示しをいただきました。



私たちのちがい

一、自分だけを大事にする  
ことなく

人と喜びや悲しみを

分かち合います

慈悲(じひ)に

満ちみちた

仏さまのように

# 御文章に聞く(第5回)

## 聖人一流章(五帖第十通)

聖人一流の御勸化のおもむきは・信心をもつて本とせられ候、そのゆえは・もろもろの雑行をなげすてて・一心に弥陀に帰命すれば、不可思議の願力として・仏のかたより往生は治定せしめたまう、

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。

ようやく中身に入っていくこととなりました。約二百五十通はある御文章の中でも一番有名な「聖人一流章」から始めていきます。短いお手紙ではありますが、それでも数回に分けて進めていきたいと思えます。

まずは現代の言葉に直して大意をお伝えします。「親鸞聖人がお伝えくださった浄土真宗は、他力の信心を根本とする教えでありま

## 諦め

諦は真理を意味し、真理をさとるといふ言葉。お釈迦さまはさとりの内容を四諦という四つの真理に分けて説法した。諦めるとは正しいことに気づくということでもある。

『気になる仏教語辞典』  
著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

私たちの往生を決定してくださいませ。一時の挨拶などもなく、冒頭から浄土真宗の要が述べられています。それは、浄土真宗というみ教えは、他力の信心を根本としておりますということ。他力の反対は自力。信心は私が信じる心だから自らの力ではないのかと思われるかもしれませんが、私が起こす心ほど不確かな物はありません。自分の都合によつて信じたり、信じなかったりしてしま

ます。自力の信心を救いの因とするならば、そこから漏れてくる人ができてしまうのです。阿弥陀さまの教えはどんな者でも分け隔て無く、平等にお浄土に往生させるといふもの。だからこそ、さまざまな自力のころを捨て、素直に阿弥陀さまの必ず救うというおはたらきを聞かせていただき受け入れる、それが他力の信心なのです。私のはからいは何一つ入ることなく、全ては阿弥陀さまのおはたらきによつて、私の浄土往生が決まるのだと述べられております。

# 編集後記

今月も「じゅこ」をお届け致します。今年も無事に永代経法要をおつとめすることができました。準備するのは大変ですが、この一回がとまることによつて、今までとこれからをつなげられたような気がします。お手伝いをいただいた役員や年行事の皆さんのおかげです。有難うございました。

過去、現在、未来をつなぐ。そんな意味を持つ永代経法要ですが、何をしないといけないかという、もちろんお念仏の教えなのです。偶然にも今、既に聞かせていただいているこの私でありましたが、その教えを自分のこととして喜び、そして次に伝えていきたい、残していきたいと思われているでしょうか。ぜひとも手を合わせている姿やお念仏があつて良かったという思いを口に出して、ご家庭の中でもご相続いただきたいと思います。

(釋法道)

# 行事案内

- 日時・十一月十五日(金) 十三時半  
行事・本願寺津村別院 報恩講法要 参拝
  - 日時・十一月二十七日(水) 十四時  
行事・久宝寺御坊 願証寺 報恩講法要 参拝
  - 集合・十三時 出戸イオン横のタクシー乗り場
- (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)



十二月二十二日(日) 十時〜十六時  
じゅも会 冬のじゅい  
お餅つきやゲーム、制作などを予定しています